

第6回JR肥薩線検討会議

■日時：令和6年2月13日（火）9：45～10：30

■場所：ホテル熊本テルサ 3階 たい樹

■概要

○冒頭、国土交通省 岸谷技術審議官、熊本県 田嶋副知事から挨拶があり、配付資料に沿って説明の後、意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

岸谷技審

本日は大変御多用の所、第6回の肥薩線検討会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。一言ご挨拶を申し上げます。

まず、先月1月1日に石川県の能登半島を中心に大変大きな地震が発生しました。お亡くなりになられた方々に心から哀悼の意を表するとともに、今なお不便な状態でいらっしゃる多くの被災者の方々にお見舞いを申し上げます。

鉄道についても、JR西日本七尾線と、のと鉄道が大きな被害を受け、現在も一部運転を休止している区間がございます。私も昨日、石川県能登半島の七尾駅周辺に行っており、鉄道の被災状況と復旧状況の確認をしておりました。まだ水道も通っていない七尾駅の周辺ではございましたが、JR西日本、そしてのと鉄道の社員の方々と復旧工事に従事する関係者の方々の懸命な努力により、少しずつ復旧区間が伸びており、うまくいけば4月上旬には、のと鉄道穴水駅までの全線で運行再開がなされる見込みとなっております。

鉄道の復旧を伝えるニュースは、被災地の復旧復興を支える大変心温まるメッセージ、メッセージ性の強いニュースだと感じております。まさに昨日も、現場に行ってそういう思いを強くしました。

また、今回、被災したのと鉄道の復旧に当たりましては、熊本県のくま川鉄道、南阿蘇鉄道、肥薩おれんじ鉄道から復旧支援の募金に取り組んでいただいたと聞いております。この場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、肥薩線の会議ですが、昨年12月の第5回の会合におきまして、熊本県から肥薩線を鉄道で復旧した場合に考えられる復興方針（案）と費用負担の考え方が示されました。県及び地元の皆様の覚悟、あるいは意気込みが示されたものだとは承知しております。

本日の会合では、それを受け、JR九州からご意見・ご意向を伺うこととな

っておりますが関係者でしっかり議論をし、復興方針がより実効性の高いものとなるよう協議を急いで参りたいと考えております。

本日の会合におきましても、出席の皆様方から、忌憚のないやりとり、活発なご議論がなされることを期待しまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

田嶋副知事

本日は御多忙の中、御出席いただき本当にありがとうございます。

先月1日に、石川県能登地方で発生した最大震度7の大きな地震。被災された皆様におかれましては、1か月半が経った今も非常に厳しい状況が続いているということで、心よりお見舞い申し上げます。

本県といたしましても、発災直後から、被災された方々の生活・健康支援、がれきの処理、住宅の支援など、職員を派遣し全力で支援しているところであります。熊本地震からは8年経ちますが、熊本地震を経験した本県の責任として、またその際賜った全国からの応援に応えるためにも、熊本地震で得た経験、ノウハウをしっかりと伝え、最大限の支援をして参りますので、引き続きよろしく申し上げます。

さて、前回の会議では、本県から復旧後の持続的な運行を支える基本的な方針としまして「JR肥薩線復興方針（案）」をお示ししました。JR九州からは「重く受け止める」と、コメントをいただきました。

国土交通省からは、4月に知事の交代を迎えるという限られた時間の中で、実のある成果が出せるよう、事務レベルでも膝詰めの議論を行うようにサジェスションをいただきました。

また、JR九州におかれましては、前回の会議後から、直ちに本県との協議や社内の調整に真摯に取り組んでいただき、改めて感謝申し上げます。

熊本地震、さらには令和2年7月豪雨など、これらの復旧・復興に懸命に取り組んできた蒲島県政4期目も、残された課題に道筋をつけるための集大成の時期を迎えております。

今、被災地では、住まいの再建やなりわいの再開など、一歩ずつ進んでおります。河川・道路の復旧復興整備につきましては、九州地方整備局の絶大なる支援のもと、着実に進んでおります。

一方で、令和2年7月豪雨で最も被害の大きかった球磨村では、被災後の人口減少が4割を超えるという非常に厳しい現実もございます。

またそれ以外の地域でも、発災から3年半が経過した今なお、被災によって転居を強いられ、故郷に帰りたくても帰れないという状況の方々もいらっしゃる

やいます。

そういう方たちに安心して故郷に帰ってきていただき、球磨川流域の明るい未来を創っていくため、一日も早く肥薩線の復旧の方向性を示し、地域が一丸となって前を向いて取組みを進めていく、進んでいく必要があると思います。

県としては、肥薩線の復旧なくして球磨川流域の将来の存続はないとの覚悟でこの問題や、地元との調整に当たって参りました。蒲島知事も、残された任期の中で復旧に向けた道筋をつけるという思いも表明しております。

本日の会議では、関係者が集い、肥薩線の将来についての考えが詰まっていく、そして合意ができる、そのような会になると信じております。本日はよろしく願いいたします。

○資料に沿ってＪＲ九州より説明

田嶋副知事

本日はＪＲ九州から私たちの示した復興方針について、鉄道復旧への思いを共有した上での考えを、スピーディにお示しいただいたことについて、まずは感謝を申し上げます。

これまでの議論を本県側から整理いたしますと、事業間連携による国の財政支援が表明された後、ＪＲ九州からは検討すべき６つの課題が示されました。それに対してお答えしたものが復興方針と考えております。

今回、これまで鉄道復旧には非常に慎重なコメント・立場を繰り返してこられたＪＲ九州から、復旧を進めるための要望と論点整理が出されたということは、私たちが示した復興方針をしっかりと評価いただき、地元と同じ方向を向いて進むという意味表示であると前向きにとらえております。

ご要望の内容については、普段使いの問題も含め、難しい問題もございますが、速やかに地元と共有いたします。特に住民の肥薩線の利用や、復旧に向けた機運醸成については、地元の思いをしっかりと県民や、国に届けられるよう、知恵を絞って参りたいと思います。

その他の論点についても引き続き、ＪＲ九州と膝詰めの協議を行い、年度内には、地元とＪＲ九州との間で「鉄道復旧を目指す」という大きな方向性が示されるよう、不退転の覚悟で臨んで参ります。よろしく願いします。

岸谷技審

J R九州のお考えは、観光利用に加えて、マイレール意識の醸成による日常利用の創出という二つ目の柱を加えるということだと理解しております。

内容につきましては、非常に理解できる話だと思っております。抽象的かつ個人的な意見となりますが、今後復旧や、鉄道の運営に公的な資金が投入されることになった場合、地域住民の方々に負担感がなく、公的な支援を投入することについて快くご理解をいただく必要があると思っております。そのためには、鉄道が地域にとって、外貨を稼ぐ、外から人を呼び込む、あるいは経済効果を生むということを地域の方々に理解していただく必要があります。そのためには、地域の方々も鉄道にコミットし、何か新しい動きを起こすためには、地域の方々も鉄道を利用する機会をできるだけ多く持っていただくということが大事だと思います。

必ずしも通勤や通学に限りませんが、日頃から鉄道を利用する機会をできるだけ多く持っていただくという取組みはぜひスコープの中に入れてほしいと思います。また、スケジュール感について、鉄道があるということは、鉄道がない地域に比べると非常に大きなアドバンテージがあると私は思っております。特に国鉄時代から運営された路線は、鉄道のない地域に比べて多くの恩恵を受ける機会がある、あるいは恩恵を得るための装置を持っている、ということが中々地域の方に思っていないというのが全国的な実態ではないかと思います。

今回、不幸にして、一部区間で運休が続いており、不便な状態が続いていると思いますが、鉄道があったことのアドバンテージを再認識していただくという意味で、復興方針（案）に記載された利活用策が、運行再開前に実施されている、あるいは実行できる状態になるということが大事だと思いますので、その点も補足をさせていただきたいと思います。

吉永局長

前回、熊本県から出されたJ R肥薩線の復興方針（案）について、今回、J R九州から、観光振興による観光需要の積極的な取り込みについて理解が示されるとともに、日常利用の重要性として、沿線の方々の肥薩線に対するマイレール意識の醸成による日常利用の創出が必要であり、またJ R九州も日常利用の創出に協力する、とございました。さらに、復興方針（案）のとおり鉄道復旧する場合は、鉄道の利活用策の確実な実施などの必要性についての言及もございました。熊本県をはじめとした沿線地域の皆様の思い・覚悟を、J R九州としてしっかり受け止めた内容であると理解をいたしました。今回示されたJ R九州の考えも踏まえ、熊本県をはじめとした地域の皆様、そしてJ

R九州などの関係者間において、創造的復興に向け、更に検討が深まっていけばと思いました。

九州運輸局としては、本地域における幹線交通はもとより、フィーダー交通を含め、交通のあり方、観光の振興についても、本省鉄道局、あるいは観光庁ともよく連携のうえ、引き続き可能な限り御協力を申し上げたいと思います。

森戸局長

田嶋副知事からのご挨拶の中でもコメントを頂戴いただきましたが、令和2年7月豪雨以降、肥薩線沿線で河川事業として護岸復旧、河道掘削、宅地嵩上げ事業、道路事業では球磨川を渡河する橋梁10橋を含む、球磨川両岸の約100kmの災害復旧を鋭意進めており、着実な進捗が図られているものと思っております。

私どもの考え方は前回も申し上げましたが、私どもが協力をさせていただけるフィールドについては、検討が必要であります、協力できるフィールドがありましたらしっかり協力をさせていただきたいと考えております。

今回、JRや、岸谷技術審議官からも言及がございましたが、運行再開前に実行されている、あるいは実行できる状態になっているということが、先般熊本県が示された復興方針の、各具体的項目ができるところまで進んでいることが大事ということでございました。今後の検討協議内容の調整など、我々としても可能な限りコミット、あるいは情報共有等もさせていただき、引き続き協力・連携できるところを私どもとしては前向きに対応して参りたいと考えております。

岸谷技審

貴重な御意見、ありがとうございました。

本日の会議では、熊本県から示された復興方針（案）を踏まえ、JR九州の考えとして、観光による振興の柱に加えて、マイレール意識の醸成による日常利用の創出も柱として考える必要があるということについて、出席者の方々からのご同意が得られたと思います。引き続き、具体化・深度化していくことになろうかと思えます。

次回の会議につきましては、まだ日程等調整中でございますが、本日の議論を踏まえ、関係者間で「鉄道復旧を目指す」合意がなされ、次年度、沿線市町村も含めた、より詳細な具体的検討に入れればと考えております。次回の検討会議に向け、引き続き、関係者、あるいは担当者の方々との間の議論をしっかりと

り進めていきたいと考えております。

富永部長

最後に、記者ブリーフィングでの説明内容を整理したいと思います。

本日の会議の概要としましては、まず冒頭に、「ＪＲ九州から、「これまでのＪＲ肥薩線検討会議を受けたＪＲ九州の考え」についてご説明いただきました。

これにつきましては、地元が取りまとめた復興方針に一定の評価をいただいたうえで、「観光による振興」だけでなく「沿線の方々の肥薩線に対するマイルール意識の醸成による日常利用の創出」を２本の柱として考える必要がある、とのご要望があり、鉄道復旧の議論を進めるための論点整理についてご意見をいただきました。

これに対して県からは、「ＪＲ九州の方から鉄道復旧を進めるためのご要望と論点整理が出されたということは、認識の共有に向けて一歩進んだものと前向きに受け止める。ご要望について速やかに地元と共有し、詳細を検討したい。年度内の合意を目指したい。」という趣旨の発言がありました。

また、国土交通省からは、鉄道復旧に公的な資金が投入されるに当たって、地域の方にコミットしていただくこと、鉄道を利用していただくこと、そして、鉄道がある地域というアドバンテージを地域の方に認識していただくこと、そして、復興方針（案）で示された鉄道の利活用策の確実な実施が必要であるということを踏まえ、今後、今回の会議においては、復旧に向けた合意がなされるよう検討を進めていき、次年度はより具体的な検討に入れるように関係者間で議論を進めたい、という旨のご発言をいただきました。

記者ブリーフィングにおきましては、本日ＪＲ九州からご提示いただいた資料を配布し、これらの流れを報告したうえで、質問に対しましては、ＪＲ九州の考え方については貴社からご説明をいただき、県においては、今回のご意見への対応を適宜コメントし、全体としては、次回検討会議に向けて、正念場であるという外出しを考えております。